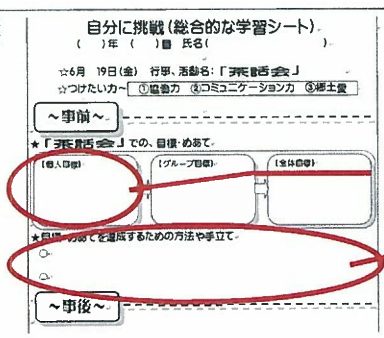

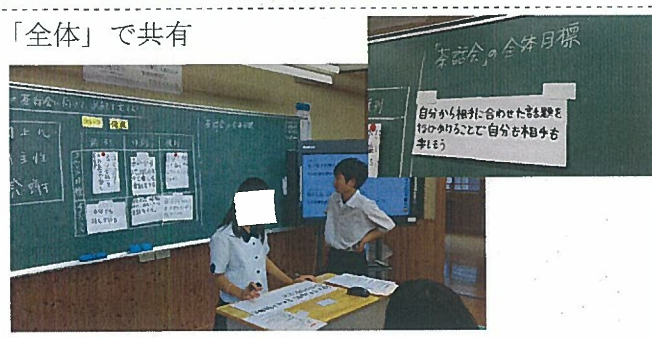


私がお勧めのアクティブラーニング

佐伯市立本匠中学校 氏名 (津 村 俊 輝)

学年 (1 ～ 3 年縦割り班)	教科 (総合的な学習の時間)
単元名等	「茶話会」に向けての「めあて」を立てよう
主 眼	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちが摘んだお茶を全員で味わいながら地域について関心を高める。 ● お茶についてのクイズやゲーム交流を通して、老人クラブの方々との交流や親睦を深める。
つけたい力	① 協働力 ② コミュニケーション力 ③ 郷土愛 (4 ～ 1 で自己評定)

1. アクティブラーニング実践場面

指導のプロセス	説明
<p>① 「個」で考察</p>  <p>The diagram shows a flow from 'Before' to 'After'. It includes a box for 'Individual Goals' (「個」の目標) and a box for 'Handouts for Goal Achievement' (目標達成のための手立て). Red circles and arrows highlight these key elements.</p>	<p>一人一人の生徒が自らの課題意識に基づき考察し、グループ内協議に備える。</p>
<p>② 「グループ」で協議</p> 	<p>個人で考えた意見を小グループ内で協議し、各グループの意見としてとりまとめる。</p>
<p>③ 「全体」で共有</p> 	<p>グループごとに協議した意見を全体に発表し、それをもとに全体案を提案し、共有する。</p>

2. 所感 ※言えそうなこと、考えたこと、課題等

< 成果 >

単に個別で考えて発表させるより、1クッションとしてグループでの協議を入れることで、お互いの意見の交流が活性化され、決定した目標自体の深みと具体性が増した。全体の目標を提案した際も、一人一人の原案が活かされ、自己有用感も増していた。

< 課題 >

- 個で考察する際のスピードと深さの度合の兼ね合い。
- グループで協議するときの、イニシアティブをとる生徒の固定化→グループリーダーの有効な活用方法及び役割ローテーションの工夫。